

マチカネワニ化石天然記念物指定 × 豊中市市制施行90周年記念

マチカネワニのいた豊中

—チバニアン期の大阪—



2026年

2027年

10月15日(木)～1月30日(土)

大阪大学総合学術博物館 3 階多目的室 (豊中キャンパス)

開館時間 10:30～17:00 (入館16:30まで)

日曜・祝日および年末年始は休館 ※ただし11月1日(日)、3日(火・祝)は開館。臨時休館・開館となる場合があります。最新の情報は当館ホームページでご確認ください。

入場無料

主催 大阪大学ミュージアム・リンクス
(大阪大学総合学術博物館、大阪大学適塾記念センター、大阪大学アーカイブズ)

共催 豊中市

協力 大阪市立自然史博物館、京都大学総合博物館、豊中市立郷土資料館、
千葉県立中央博物館、高橋啓一(滋賀県立琵琶湖博物館)、
渡邊克典(さしわだ自然資料館)





マチカネワニ化石

今から約40～50万年前、豊中の地には川や湿地、海が広がり、その水辺には巨大なマチカネワニが生息していました。現代の住宅地や大学キャンパスが広がる風景と異なり、そこには多様な生き物たちが暮らす自然環境がありました。その痕跡は私たちの足元の地層の中に、化石として静かに眠っています。昨年、「マチカネワニ化石」が天然記念物に指定され、そして本年は豊中市市制施行90周年という節目の年を迎えます。これを機に本展では、マチカネワニが生きていたチバニアン期の大阪に注目し、当時の自然環境やトウヨウゾウをはじめとする動植物たちについて紹介します。身近な街の地下に残された化石から、約40～50万年前の豊中に広がっていた自然と、そこに生きた生き物たちの姿を探ります。

About 400,000 to 500,000 years ago, the Toyonaka area was covered by rivers, wetlands, and the sea, where the giant crocodylian *Toyotamaphimeia machikanensis*, known as the "Machikane Crocodylian," lived. In 2025, the "Machikane Crocodylian Fossil" was designated a Natural Monument, and 2026 marks the 90th anniversary of Toyonaka City's establishment. To commemorate them, this exhibition focuses on Osaka during the Chibanian Stage- the period when the Machikane Crocodylian lived- and introduces the natural environment of that time, including its diverse flora and fauna such as Stegodon. Through fossils preserved underground, we explore what the landscape of Toyonaka was like 400, 000 to 500,000 years ago.



大阪大学「ワニ博士」博物館の頃

展示構成

第1章 50万年前へタイムトラベル

約40万年～50万年前、豊中の地にはどのような風景が広がり、どのような生き物が暮らしていたのでしょうか？マチカネワニとトウヨウゾウを中心に、化石や復元画を通して、チバニアン期の豊中の風景を紹介します。

第2章 チバニアン期の豊中

約40万年～50万年前の豊中の大地はどのような環境だったのでしょうか？マチカネワニを含む化石たちが発見された大阪層群や、千里丘陵の地質・地形を紹介します。岩石標本やボーリングコアから、私たちの足元に残された過去の記録を読み解いてみましょう。



豊中キャンパスの大地を構成する大阪層群

第3章 豊中に生きたワニ

大阪大学豊中キャンパスで発見され、現在では国指定天然記念物となったマチカネワニとは、いったいどのような生き物だったのでしょうか？1964年の発見から現在に至る研究の歩みを振り返るとともに、今も生きているワニ類の標本を通してマチカネワニの姿や生態に迫ります。



マチカネワニが暮らしていた水辺の貝 イケチョウガイの化石

第4章 ワニと共に生きた動物たち

マチカネワニが生きていた豊中には、どのような生き物たちが暮らしていたのでしょうか？生い茂る森林地帯を、ゾウやシカの仲間たちが闊歩し、彼らの足元でカメや魚、貝など多様な生き物たちが生きていたことが分かっています。当時の水辺や陸地に広がっていた環境を描き出し、マチカネワニの生きていた時代の生態系を紹介します。



マチカネワニが暮らしていた水辺のカメの化石



マチカネワニが暮らしていた水辺の植物シリプトビシの化石

第5章 50万年を生き抜いてきた者たち

50万年前の豊中には豊かな自然が広がっていました。その自然は姿を変えながら現在まで受け継がれています。待兼山をはじめ豊中に残る身近な自然を写真に収めた記録や標本等から紹介します。身近な自然を守り、未来へつないでいく活動にも目を向けます。はるか昔から続く自然のつながりを感じながら、身近な風景に潜む歴史と驚きにふれてみましょう。



蜚池産トウヨウゾウ牙化石(京都大学総合博物館蔵)

関連イベント

2026年11月23日(月・祝) 「マチカネワニDAY 2026」

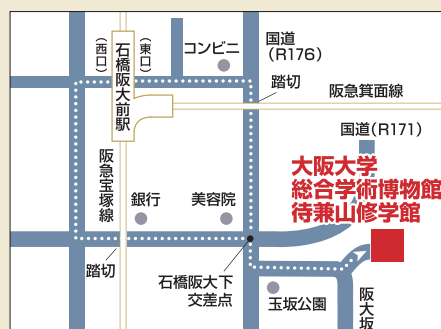
会場：大阪大学総合学術博物館・大阪大学会館
内容：天然記念物「マチカネワニ化石」の魅力を発信するイベントを開催します。
詳細は博物館ホームページをご覧ください。
(<https://www.museum.osaka-u.ac.jp>)

2026年12月12日(土) 担当教員によるギャラリートーク

第1回13:00～、第2回15:00～ 各回 約30分
事前申込み不要
会場：大阪大学総合学術博物館 3階多目的室
内容：本展の担当教員が、展示の見所について紹介いたします。

会場へのアクセス

ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。
阪急宝塚線「石橋阪大前駅」下車徒歩10分
大阪モノレール「柴原阪大前駅」下車徒歩20分



<https://www.museum.osaka-u.ac.jp/guide/access/>

問合せ先

大阪大学総合学術博物館

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20
TEL：06-6850-6284
(月～土/10:30～16:30)
※日・祝は休館のため対応できません。予めご了承ください。

